

30P1-am004

実務実習事前学習の充実に向けた取り組み(1) - 調剤の認識に対する定型自由文の形態素解析 -

○濃沼 政美¹, 小池 勝也¹, 中村 均¹(¹日本大薬)

【目的】薬学教育 6 年制を指向した事前実務実習を実施するため、実習前の学生の「調剤」に対する認識の程度を理解し、教科指導の方針を考察する。

【方法】実習前の 3 年生(224 名)に対し、「調剤」に対する文章完成形式の定型自由文を作成させた。テキスト化したデータを基に、言語解析ソフト「Win Cha 2000」により形態素解析を行った。品詞情報に基に生成した形態素を要因および特性に分類し、特性は更に知識・技能/態度・イメージ・リスク等の 6 項目に分類した。クロス集計表およびフィッシュボーン型要因特性図を作成し、言語間の因果関係について解析した。

【結果】特性分類の解析結果、技能/態度の特性が知識の約 3 倍の頻度で得られた。イメージ特性において高頻度であった形態素は“大変”、“やりがい”、“責任”、“命”等であった。中でも“がんばる”は、要因特性図において最も複数の要因により構成され、大枝は“やりがい”、中枝は“大変”、小枝は、“難しい”等で構成された。

【考察】調剤に関して実習前の学生の認識は、知識よりも技能/態度、リスク等に関心を持つ傾向が認められた。また、“がんばる”という意識の深層心理には、“やりがい”や“大変”、“難しい”等が要因として認められたことから、教科指導は、医療現場の実例を多く取り入れる等、これらの心理を踏まえた教育が望まれた。